

施設の状況把握

本年5月の改選を受け、3つの関係施設を視察しました。

7月29日(月)

須恵町環境美化集積所

町内の美化作業や、各家庭から出される草、木、剪定枝を破砕し集積する場所です。

須恵町堆肥センター

町内の畜産農家(酪農)で組織されている「須恵町堆肥生産組合」と町が、平成21年から新たな堆肥「すえつ肥」を作っています。



堆肥発酵過程の説明を聞く

「すえつ肥」とは、町内の畜産農家から排出される牛ふんに、環境美化集積所で破砕された草、木、剪定枝、オガクズを混ぜ合わせて作られる熟成した堆肥です。

製造工程は、一次、二次、三次発酵と移動しながら120日をかけて作られます。

温度を65(殺菌温度)に設定し、発酵させます。

二次発酵では、掻上機でゆっくり移動させながら混ぜ合わせ



須恵町ホームページ

ます。古い機械のため、大事に使用されてきました。資源を有効に活用した環境に優しい循環型の「エコ堆肥」で、町内で発生するもので作られ、地産地消にもつながっています。田や畑の土づくりにも、ぜひ「すえつ肥」を使ってみてください。

北筑昇華苑
北筑昇華苑組合は、昭和45年4月1日に設立され、現在は、3市7町(福岡市、福津市、古賀市、須恵町、宇美町、志免町、粕屋町、篠栗町、久山町、新宮町)で構成されています。
火葬炉16基、告別室3室、収骨室3室、霊安室、有料待合室12室があり、職員7名で運営されています。
2018年度は、4914体の火葬をされ、年々増加傾向にあり、2040年度は7000体と予測されています。
火葬炉の老朽化に伴い、今後16基の入れ替え工事を順次行うそうです。
また、大型バスが横付け出来るように、玄関庇の伸長工事も近々行われます。
休日は年に3日で、利用者に支障がないよう、福岡市の施設と調整しながら運営されています。
友引の翌日は、どうしても混み合うそうです。
今回、初めてバックヤードの炉機械室に入れてもらいました。



火葬炉バックヤード

ここで職員の方がスイッチを入れ点火します。確認用に炉の中を覗く小窓がありました。確認できるのは職員だけだそうです。



火葬炉入口を前に

障がい児放課後等対策事業

一人一人の成長・発達を支援

9月30日(月) おひさまくらぶ

須恵町の小中学校では、特別支援学級の児童数が年々増えています。(9月1日現在知的118名、情緒72名)

また、施設が使いづらいとの関係者の声があり、委員会として状況把握のため視察を行いました。

目的・利用時間・場所

障がい児の健全育成と保護者の就労支援や一時的な休息を目的としています。

登校日(平日)は、下校後18時(町内の学校へ迎えに行きます)。



夏休み等の長期休暇(平日)は、9時～18時(保護者の送迎)で、須恵中学校内まなびつく教室で行っています。

現状

平成23年度より開始し、9年目を迎えました。利用児童数は16名(常時利用10名・長期休暇のみ5名)、本年度の新規利用は1件で、利用者が伸び悩んでいます。

設立当初には無かった民間の事業所が増加したことにより、施設面(専用施設でない)など運営体制を比較して民間の事業所を選択する保護者が増えたことが要因です。

民間利用の場合、利用者は費

用の1割を負担しますが、利用は月23日までとなっており、それを超える日数は、おひさまくらぶに預けています。
また、施設面では利用している2部屋が、廊下を通って行き来するため(靴を履いて廊下に出て、靴を脱いで部屋に入る)、使いづらい状況でした。

職員6名は、児童の人数により勤務・賃金が変動しており、固定勤務・固定賃金に改善し雇用の安定を図ることが、より良い障がい児の休息の場としての放課後預り事業に繋がると思っています。



今後

民間の事業所では行えない「児童のストレスフリーの休息の場」と「保護者の就労支援と一時的な休息」が達成できるよう、施設改修を含め、差別化を図っていきたいとの事でした。

調査を終えて

施設を改修し差別化を図っていくのか、他の施設を利用して運営するのか、民間委託するのも含め、町の方向性を検討していく必要があるが、現状の施設で関係者の皆様は、日々奮闘されていると思います。

さらに充実した活動・取組みができるよう、議会としても支援してまいります。

